

化が必要であることが分かった。

5. ロジスティック要員の研修のあり方に関する研究

東日本大震災の教訓を受け、本部機能の強化のためのロジスティック要員の研修のあり方について検討した結果、DMAT本部機能の強化には、中央直轄型のロジスティックチームによる本部支援と、各チームの業務調整員の機能強化による対応の両面の対応が必要であることが指摘されていた。本研究においては、今年度、中央直轄型のロジスティックチームの研修カリキュラムを開発し、これを基に、DMAT研修インストラクターを対象としたDMATロジスティックチーム研修が開催された。カリキュラム、研修の概要を資料5に示す。

6. ロジステーションの具現化に関する検討

6-1. 関連業界の窓口と連携についての研究

昨年度に引き続き各関連業界団体を訪問し、意見交換を行うとともに、政府総合防災訓練における広域医療搬送訓練等において関連業界との連携訓練を実施し、その成果と課題について検討を行った。

平成26年8月30日(土)に大分県、宮崎県、鹿児島県を被災県として実施された政府総合防災訓練における広域医療搬送訓練では、一般社団法人日本医療機器販売業協会、一般社団法人日本産業・医療ガス協会、一般社団法人全国ハイヤー・タクシー連合会、一般社団法人日本医薬品卸売業連合会、NPO法人日本福祉タクシー協会、公益社団法人全日本トラック協会、各団体の九州各県内の会員団体、関係民間企業等との連携訓練を実施した。訓練会場となった九州各県内では、関連業界団体とDMAT、都道府県DMAT調整本部等との連携訓練を行った。

訓練は、DMAT調整本部とDMAT事務局、関連業界との連絡調整訓練に始まり、DMAT調整本部が被災地域内において必要な物資・資機材等のニーズを把握し、また、被災県外から空路投入されたDMATの移動手段、患者の搬送手段、物資の輸送手段等につい

て関連業界団体の協力を得て必要資源の確保のための調整業務を実施した。なお、県と関係業界の間で協定がある場合は、協定に基づいた連絡調整等を行った(図1)。

これまでの意見交換や連携訓練から、災害時にDMATと関連業界団体や民間企業等が連携して支援活動が可能であることが確認できているが、一方で都道府県と関係業界の間で協定があっても、それぞれの担当者や連絡方法が互いに確認されていない場合も多く、今後も各地域の連携訓練を継続して行うことが重要である。

6-2. NEXCO 各社との連携に関する研究

一昨年から始まったNEXCO各社との大規模災害時連携協力に関する研究では、本年も引続き共同訓練を多数行なった(表1)。

今年度は8回の実働訓練を行なった。特にNEXCO西日本九州支社と協力して初めての参集訓練を行った。また本部機能を備える高速道路の道路状況を常に監視している交通管理センター内から、刻々と変わる道路情報を発信しNEXCOとの情報共有をする訓練も行い双方の理解を深めた。

また、連携訓練のみならず、DMATインストラクターらを対象とするDMATロジステックスチーム隊員養成研修でのNEXCO東日本担当者より防災対策にかかる講義の実施、NEXCO東日本防災危機担当者を対象とする防災危機管理研修におけるDMATについて講義の実施、国連防災会議におけるNEXCO東日本と協力してのDMATとNEXCOの協力について発表、ディスカッションの実施などにより、互いの関係者間の理解促進の機会を持つこともできた。

今後はこれらの連携訓練の継続実施や総合理解の機会を持ちながら、今後南海トラフ地震の対応マニュアルの検討や訓練、首都直下地震の際にどのような協力ができるのかなど、引き続き検討して行く必要がある。

県境をまたいだSAの活用に対しても誰が責任を持って運用して行くのかなどについても検討の余地は残っている。

昨年リニューアルオープンした常磐自動車道の守谷 SA(初めての防災拠点として作られた)の運用についてもヘリポートの活用や参集拠点としての役割などももっと具体的に検討していく必要がある。

また、今後は、NEXCO 各社だけでなく地方の道路行政を司る、地方整備局等との協力も模索する必要がある。

6-3. 日本集団災害医学会パネルディスカッション

第 20 回日本集団災害医学会学術集会においてパネルディスカッションを企画し、「災害医療ロジスティクスの研修・訓練について」をテーマに将来的には学会認定制度なども視野にロジスティクス・セッションとして、各団体で実施している研修内容及びその課題についてパネルディスカッションを実施した。

座長は神戸学院大学現代社会学部中田敬司と村山医療センター楠 孝司が務めた。

まず「DMAT のロジスティクスチーム隊員研修」と題して、災害医療センター市原正行から報告があった。それによると、DMAT 活動において認識されたロジスティクスの関する課題への対応として、DMAT ロジスティクスチームが作られ、その隊員養成研修が実施された。目的は DMAT 本部における本部業務に従事すると共に、被災地でロジスティクスを専門に実施する隊員の養成である。本部活動を理解する机上演習、通信環境確保、関係民間事業者との連携を考えていく演習やパネルディスカッションを実施した。今後は指揮情報活動とロジスティクス活動に必要な内容を検討しカリキュラムの見直し、関係機関との連携の在り方を改善する必要があることが示された。

次に国際緊急援助隊事務局大友 仁から「災害医療ロジスティクスの人材育成における課題と取り組み」と題して、国際緊急援助隊事務局のロジスティクス教科等について報告があった。2000 年に事務局にロジスティクス専門要員が配置され、人材の育成がスタートした。大きな課題は災害経験の蓄積と言えるが、日本においても多くの現場があるとはいえない。

そこで研修や演習の頻度や質の向上、受講者側のイメージング力・リアリティなどを研修に取り入れる工夫が必要であると述べられた。

続いて「災害時における医療ロジスティクスの教育・訓練」と題して、日本災害医療ロジスティクス協会春田 謙(中田 敬司)から報告があった。過去 3 回、1 回につき民間人 30 名程度対象に実施しており、基礎コース・中級コースとして 2 日間にわたり実施し、基礎コースでは災害の基礎やロジスティクスの主な活動、派遣シミュレーション、中級コースではトピックスの講演や東日本大震災での実際の業務と課題等を検討していくパネルディスカッションを実施した。今後は研修内容をベーシックなものからスペシャリティなものへと内容の見直しで課題となっていることが示された。

さらに「第 2 回日本災害医療ロジスティクス研修—東日本大震災被災地を会場とした大規模ロジスティクス研修—」として岩手医科大学の藤原弘之から報告があった。本研修の特徴は東日本大震災の被災地である岩手県全域を訓練地として展開していることであり、よりリアリティを追求したものである。内容は、ロジスティクスの基礎、円滑な通信環境構築による本部運営方法の習得、及び他組織間連携強化などが習得目標で、実際に被災した 9 つの施設を利用し本部運営・被災地内での生活等を実施した。訓練研修で、実践により近い環境での訓練研修であることから通常訓練などでは見えないことも抽出できた。

最後に、日本赤十字社長野県支部北川原 享から「赤十字のロジスティクス教育の現状」と題して報告があった。災害救護活動に従事するロジは、医療救護班の一員として庶務的役割を担う事務系職員を「主事」。本部運営を担う各支部の職員や日赤病院の幹部・救護担当職員を「災害対策本部要員」と称し、計 2,774 人が登録されている。全社教育研修の場として、全国救護班研修(平成 21 年度から 20 回開催:旧称「日赤 DMAT 研修」)及び災害医療コーディネートチーム研修(旧「救護員指導者研修会」を発展的解消し本年度開始予定)、

こころのケア指導者研修(主事にカテゴライズされる臨床心理士も参加)などがある。各支部では、平成23年度改定「救護班要員マニュアル」(災害救護、医療救護、医療救護体制、こころのケア、助産、死者・遺族対応、情報収集・伝達、資機材の各項と309頁に上る関連法規や実技資料をまとめた資料を加えた救護班用のテキスト)などにより、多くの研修会が開催されており、昨年度の主事・本部要員の参加者は1,830人。各種訓練への参加者は、4,900人となつてはいる。当社救護活動の意思決定は災害対策本部長(事務官)が下す仕組みであり、今後災害医療コーディネーターの活用と災害対策本部要員への教育・研修の強化が必須である、と示された。

全体の報告後にそれぞれの観点からロジスティクスの研修・訓練についてディスカッションが行われた。実際の災害現場での協働、各研修会での共通事項について、指定公共機関を含む民間事業所との連携、学会認定制度について、また今後の若手教育についての意見も提示され、活発なディスカッションとなった。今後とも継続してこうしたディスカッションを実施し、更なる課題の抽出と同時に解決策の検討の必要性を確認した。

各発表者の発表スライドを資料6に示す。

7. 被災地内における通信環境の確保に関する検討

昨年度に引続き独立行政法人宇宙航空研究開発機構JAXA等との連携訓練を広域医療搬送訓練、DMAT地方ブロック訓練等において実施し、通信手段確保の可能性について検証した。

広域医療搬送訓練においては、大分県内の大分スポーツ公園SCUに松山空港から自衛隊航空機により可搬型超小型地球局を輸送、設置し、JAXAの超高速インターネット衛星「きずな」を利用したインターネット環境を構築した。

また、災害医療センターを始め、各地方ブロックでの訓練時などに合わせ、年間計11回の超小型地球局の組み立て訓練をDMAT隊

員対象に行い、JAXA職員の派遣が困難な状況であっても、地球局の設置ができる体制整備を進めた。

また、災害医療センターとJAXAとの協定に基づき、JAXA所有の地球局1基を平成26年7月から災害医療センターに常時保管することとし、災害時の通信確保に関し柔軟な地球局の設置・運用が可能となるよう対応を行った。

日本赤十字社とDMATとの災害時の連携の一環として、赤十字無線の設置・運用訓練も各地で実施した。広域医療搬送訓練においては、被災地域である大分県、宮崎県、鹿児島県を中心に無線ネットワークを構築した。しかしながら、日赤無線は非常に活用な通信手段ながら、日本赤十字社各県支部を始め関係者の多大な事前準備等を要しており、災害時に実際に運用可能な日赤無線の活用のあり方については引き続き検討を継続する必要がある。

D 考察

DMATの運用と指揮の基本的な考え方についての検討から、先行研究で、DMAT運用における基本的な考え方は整理されていた。本研究においては、昨年度、本部における組織体制、役割分担、情報整理の具体的な手法、搬送調整の在り方が提示された。今年度は、さらにDMAT運用の基本的な考えが提示された。これらは、統括DMAT研修、統括DMAT技能維持研修、DMATロジスティックチーム研修の講義における基本的な考え方として活用できる。

統括DMAT研修の検討、都道府県担当者研修の検討の成果として、今年度の統括DMAT研修、統括DMAT技能維持研修・ロジスティクス研修、DMAT技能維持研修、都道府県担当者研修のカリキュラムが提示され、そのカリキュラムに従い、研修が行われた。特に今年度は統括DMAT技能維持研修・ロジスティクス研修を新たに開発したことが成果であると考えられる。

地方ブロックにおける訓練のあり方の検討

においては、各地における訓練の状況を整理するとともに、訓練を企画するには、ブロックレベルでの DMAT 研修インストラクターの組織化が必要であることが提示できた。これは、DMAT 検討委員会での基礎資料として活用され、今後、各ブロックにおいて質の高い訓練を実施することに資するものと考えられる。

また、本研究においては、今年度から始まった DMAT 研修インストラクターを対象とした DMAT ロジスティックチーム研修のカリキュラムを開発し、当研修の実施に貢献した。

ロジステーションの具現化に関する検討は、関連業界の窓口と連携についての研究、NEXCO との連携に関する研究が行われた。

関連業界の窓口と連携についての研究では、今後も継続して災害時の協力体制の構築に向けた意見交換を幅広い関係業界団体と行うとともに、各関係業界団体、関連民間事業者との連携訓練を実施し、民間との連携の具体的なあり方、手法について引き続き検討を行うことが求められる。

NEXCO との連携については、引き続き各地域で高速道路SA等を活用した訓練を実施、その有効性が検証されている。東日本大震災の教訓も踏まえ、平成27年3月に発表された政府の「南海トラフ地震における具体的な応急対策活動に関する計画」において、高速道路施設がDMATの参集拠点として位置付けられたこともあり、引き続き、各地の高速道路での更なる検証が必要である。

被災地内における通信環境の確保に関する検討では、JAXAとの連携による衛星通信体制の確立、日赤無線の活用について検証した。JAXA との連携については、人材、機材ともに徐々に体制ができつつある。これらの体制による今後更なる検証が必要である。日赤無線の活用についても、引き続き各地での訓練を通して検証を進める必要がある。

E 結論

本研究においては、先行研究においてしめされた、東日本大震災の教訓を踏まえた DMAT の運用、ロジスティックのあり方の方向

性を基に、ケーススタディーと現地視察を中心とした DMAT 本部員への研修カリキュラムを開発したこと、地方ブロックごとに開催される統括 DMAT 技能維持・ロジスティックスのカリキュラムを開発したこと、ロジステーションの具現化に向けた NEXCO 等と連携した訓練による検証したこと、医薬品卸業界、医療機器、酸素等の関連業界との連携訓練による災害時の連携についての検証を行ったこと、被災地における通信手段の確保手法の検証ができたことが主な成果である。

これらの成果は、ロジスティック体制や行政による DMAT 運用体制の整備に貢献し、急性期災害医療体制の整備に寄与したものと考えられる。

F.健康危険情報

G.研究発表

1 論文発表

- 1) 中田正明, 日本集団災害医学会誌 2014;19:11-18「東日本大震災における花巻空港 SCU 本部での情報の取り扱いについて」

2 学会発表

- 1) 市原正行,2015;2/26-28,第 20 回日本集団災害医学会学術集会「DMAT のロジスティックスチーム隊員研修」
- 2) 大友仁,2015;2/26-28,第 20 回日本集団災害医学会学術集会「災害医療ロジスティックスの人材育成における課題と取り組み」
- 3) 春田謙,中田敬司,2015;2/26-28,第 20 回日本集団災害医学会学術集会「災害時における医療ロジスティックスの教育・訓練」
- 4) 藤原弘之,2015;2/26-28,第 20 回日本集団災害医学会学術集会「第 2 回日本災害医療ロジスティックス研修—東日本大震災被災地を会場とした大規模ロジスティック研修—」
- 5) 北川原享,2015;2/26-28,第 20 回日本集団災害医学会学術集会「赤十字のロジス

ティクス教育の現状」

H. 知的財産権の出願・登録状況
特になし。

図1: ロジスティクスに関する研究

ロジスティクス強化を目的として、
 広域医療搬送訓練等で関連機関・業界団体等と連携訓練を実施(平成26年度)

ロジスティクス拠点設置	被災地内で不足する 医療ガス確保	被災地内で不足する 医薬品確保	被災地内で不足する 医療資器材確保
<ul style="list-style-type: none"> • NEXCO西日本 • 山江SA、太宰府IC • 熊本空港 	<ul style="list-style-type: none"> • 日本産業・医療ガス協会 • 日本産業・医療ガス協会九州地域本部 • 各県の関係業界団体・民間事業者 	<ul style="list-style-type: none"> • 日本医薬品卸売業連合会 • 各県の関係業界団体・民間事業者 	<ul style="list-style-type: none"> • 日本医療機器販売業協会 • 各県の関係業界団体・民間事業者
山江SA(熊本県)のロジスティクス拠点		医療ガス業界との連携による酸素ボンベの確保(鹿児島県)	
酸素濃縮装置、燃料、電源車等の確保	DMATの交通手段、物資の輸送手段確保	被災地内での通信確保	道路状況の把握
<ul style="list-style-type: none"> • 各県の関係業界団体・民間事業者(燃料) • ジャパンメディカルパートナーズ(電源車) • 関係民間事業者等(酸素濃縮装置等) 	<ul style="list-style-type: none"> • 全国ハイヤー・タクシー連合会 • 日本福祉タクシー協会 • 全日本トラック協会 • 各県の関係業界団体・関係民間事業者 	<ul style="list-style-type: none"> • JAXA • 日本赤十字社 • ジャパンメディカルパートナーズ • 通信関係の民間事業者 	<ul style="list-style-type: none"> • NEXCO西日本
全日本トラック協会との連携による物資輸送(宮崎県)		JAXAとの連携による通信確保(大分県)	

表1: 2014年度NEXCOとの協力訓練

日時	訓練主催	高速道路	参集場所	特徴
2014.08.30	政府広域搬送訓練	九州自動車道	下り 山江SA	参集のみ
2014.08.30	政府広域搬送訓練	九州自動車道	太宰府IC 管制センター	参集と情報収集 緊急車両の登録
2014.09.01	NEXCO西日本	阪和自動車道	上り 岸和田SA	エアータントを使った参集
2014.10.11	中部ブロック訓練	中央自動車道	多治見IC 保全センター	参集及び展開訓練
2014.11.04	中国ブロック訓練	中国自動車道	下り 鹿野SA	テントにて参集拠点
2014.11.22	九州ブロック訓練	九州自動車道	久留米 IC	参集訓練
2014.11.28	関東ブロック訓練	関越自動車道	ららん藤岡 道の駅	参集訓練
2015.01.20	大阪府・市町村合同地震・津波災害対策訓練	西日本高速道路株式会社	関西支社吹田社屋	交通情報の発信

平成26年度DMATインストラクター研修プログラム

日時：平成27年3月28日（土）～29日（日）

場所：グリーンピア三陸みやこ

時間		講義
3月28日（土）		
13:00	～ 13:10	10分 開会式、事務連絡
13:10	～ 14:00	50分 1. ケーススタディ1「東日本大震災での対応について①」 担当：国立病院機構災害医療センター 近藤 久禎 岩手医科大学災害医学講座 真瀬 智彦 兵庫県災害医療センター 中山 伸一 国立病院機構災害医療センター 市原 正行
14:00	～ 14:50	50分 2. ケーススタディ2「東日本大震災での対応について②」 担当：国立病院機構災害医療センター 近藤 久禎 岩手医科大学災害医学講座 真瀬 智彦 兵庫県災害医療センター 中山 伸一 国立病院機構災害医療センター 市原 正行
14:50	～ 15:00	10分 休憩
15:00	～ 15:50	50分 3. ケーススタディ3「平成26年度広域医療搬送訓練（SCUの概念整理）」 担当：国立病院機構災害医療センター 高橋 礼子
15:50	～ 16:40	50分 4. ケーススタディ4「御嶽山噴火災害における対応について」 担当：国立病院機構災害医療センター 近藤 祐史
16:40	～ 16:50	10分 休憩
16:50	～ 18:50	120分 5. パネルディスカッション「東日本大震災（仮）」 座長：兵庫県災害医療センター 中山 伸一 国立病院機構災害医療センター 近藤 久禎 パネリスト： 岩手大学地域防災研究センター 越野 修三 岩手県保健福祉部医療政策課 野原 勝 岩手医科大学災害医学講座 真瀬 智彦 岩手医科大学感染症対策室 櫻井 滋 岩手県社会福祉協議会 加藤 良太
18:50	～ 19:00	10分 事務連絡
3月29日（日）		
8:30	～ 9:15	45分 6. 特別講演「震災当日の状況」 担当：たろう観光ホテル 松本 勇毅 岩手県立宮古病院 大久保 雅彦
9:30	～ 17:45	田老防潮堤・たろう観光ホテル跡地見学 ↓ 宮古市見学 ↓ 県立山田病院跡地見学 ↓ 昼食（三陸花ホテルはまぎく） ↓ 大槌高校見学・県立大槌病院跡地見学 ↓ 釜石市見学 ↓ 花巻SCU見学（※見学後、花巻空港フライトの便で帰路に着く方は解散） ↓ 盛岡 ①花巻空港解散 18時 ②盛岡駅解散 19時

平成26年度統括DMAT登録者技能維持・ロジスティクス研修プログラム(1日目)

月日	時 間	プログラム・担当(敬称略)
1 日 目	9:30 ~ 9:35 5分	開会式
	9:35 ~ 10:45 70分	(統)講義 1「EMIS実習」 担当：災害医療センター 市原 正行
	10:45 ~ 11:15 30分	(統)講義 2「DMAT戦略・戦術」 担当：災害医療センター 近藤 久禎
	11:15 ~ 11:25 10分	休憩
	11:25 ~ 12:55 90分	(統)講義 3 机上演習「DMATにおける各本部の役割1：DMAT活動拠点本部」 担当：災害医療センター

平成26年度DMAT技能維持研修プログラム(1日目)

月日	時 間	プログラム・担当(敬称略)
1 日 目	13:55 ~ 14:00 5分	開会式
	14:00 ~ 14:20 20分	(技)講義 1「DMATに係わる厚生労働省の施策」 厚生労働省医政局地域医療計画課
	14:20 ~ 14:40 20分	(技)講義 2「広域災害におけるDMAT活動とEMIS」 担当：災害医療センター 近藤 久禎
	14:40 ~ 15:40 60分	(技)講義 3「EMIS実習」 担当：災害医療センター 大野 龍男
	15:40 ~ 15:50 10分	休憩
	15:50 ~ 16:20 30分	(技)講義 4「本部運営と記録」 担当：災害医療センター 近藤 久禎 / 市原 正行
	16:20 ~ 18:25 125分	(技)講義 5「病院支援と受援」 担当：災害医療センター
	18:25 ~ 18:30 5分	休憩
	18:30 ~ 19:30 60分	(技)講義 6「ブロック枠」 担当：地方ブロック協議会

平成26年度DMAT技能維持研修プログラム(2日目)

月日	時 間	プログラム・担当(敬称略)		
2 日 目	9:00 ~ 9:20 20分	(技)講義 7「局地災害におけるDMAT活動」 担当：災害医療センター 近藤 久禎		
	9:20 ~ 9:30 10分	移動・休憩		
	9:30 ~ 11:30 120分	職種別講義		
		(医師・看護師)①	(調整員)②	(希望者)③
		(技)講義 8「広域災害時の医療搬送」 担当： (技)講義 9「トリアージ演習」 担当：	(技)講義10 実習「EMISでの医療搬送の情報管理(MATTS)」 担当：災害医療センター 大野龍男	(技)講義11 実習「活動拠点本部」 担当：災害医療センター 近藤久禎
11:30 ~ 11:35 5分	閉会式			

平成26年度統括DMAT登録者技能維持・ロジスティクス研修プログラム(2日目)

月日	時 間	プログラム・担当(敬称略)	
2 日 目	12:25 ~ 13:55 90分	職種別講義	
		(医師・看護師)①	(調整員)②
		(統)講義 4 机上演習「DMATにおける各本部の役割2 DMAT都道府県調整本部」 担当：災害医療センター 近藤久禎	(統)講義 5 通信確保実習 担当：災害医療センター 大野龍男
	13:55 ~ 14:05 10分	休憩	
	14:05 ~ 15:25 80分	(統)講義 6 机上演習「DMATにおける各本部の役割3：DMAT・SCU本部」 担当：災害医療センター	
	15:25 ~ 16:55 90分	(統)講義 7 本部運営実習「SCU本部」 担当：	
16:55 ~ 17:00 5分	閉会式		

平成 26 年度 DMA T 登録者技能維持・ロジスティクス研修の概要について

1. 目的

この事業は、統括 DMA T 登録者に対し、災害時に DMA T 本部の責任者として活動するために必要な知識・技術の維持、資質の向上を目的とした研修を実施する。また、あわせて、日本 DMA T 隊員として登録されている者に対して、DMA T 本部における本部要員として活動するために必要な知識・技術の習得を目的とした研修を実施する。

2. 受講対象者：当該ブロックの DMA T 登録者（職種を問わない）

3. 研修実施期間：2 日間（各地方ブロックごとに年 1 回）

4. 研修内容

- (1) DMA T の指揮・調整のあり方
- (2) 広域災害救急医療情報システムの操作実習
- (3) DMA T 本部の通信確保実習
- (4) DMA T 都道府県調整本部の役割
- (5) DMA T 活動拠点本部の役割
- (6) DMA T SCU 本部の役割
- (7) DMA T 本部設置・運営実習

5. 平成 26 年度研修実施会場及び日程

	ブロック	開催地	会場	日程
1	北海道	北海道	手稲溪仁会病院	平成 27 年 1 月 26 日(月)～27 日(火)
2	東北	宮城県	仙台市急患センター	平成 27 年 1 月 17 日(土)～18 日(日)
3	関東	東京都	内閣府施設	平成 26 年 9 月 20 日(土)～21 日(日)
4	中部	静岡県	もくせい会館	平成 27 年 1 月 10 日(土)～11 日(日)
5	近畿	京都府	京都第一赤十字病院	平成 26 年 12 月 22 日(月)～23 日(火)
6	中国	岡山県	川崎医科大学 附属病院	平成 27 年 2 月 7 日(土)～8 日(日)
7	四国	高知県	近森病院	平成 26 年 11 月 23 日(日)～24 日(月)
8	九州・沖縄	沖縄県	沖縄県医師会館	平成 27 年 2 月 16 日(月)～17 日(火)

平成26年度 第2回 災害急性期対応研修プログラム

2014年8月4日～8月5日開催

月日	時間	プログラム	講師	場所
第1 日目 8 月 4 日 (月)	12:30 ~ 13:00 30分	受付		災害医療センター 外来棟 4階 地域医療研修センター
	13:00 ~ 13:15 15分	開会式		
	13:15 ~ 13:45 30分	EMISの意義について	講師: 国立病院機構災害医療センター 近藤 久禎	
	13:45 ~ 14:15 30分	EMISリニューアルについて	講師: 兵庫県災害医療センター 中山 伸一	
	14:15 ~ 14:30 15分	休憩		
	14:30 ~ 14:40 10分	実習の準備 EMIS操作実習資料 P.2~7 システムへのアクセス～関係者メニュー	講師: 兵庫県災害医療センター 中山 伸一 EMIS操作・支援: NTTデータ	
	14:40 ~ 15:40 60分	EMIS操作実習① 災害時の実習 EMIS操作実習資料 P.8~38 災害運用切替・緊急時入力・詳細入力の入力・閲覧	講師: 兵庫県災害医療センター 中山 伸一 EMIS操作・支援: NTTデータ	
	15:40 ~ 15:50 10分	休憩		
	15:50 ~ 16:50 60分	EMIS操作実習② 災害時の実習 EMIS操作実習資料 P.39~68 DMAT関連の機能	講師: 兵庫県災害医療センター 中山 伸一 EMIS操作・支援: NTTデータ	
	16:50 ~ 17:00 10分	休憩		
	17:00 ~ 17:15 15分	EMIS操作実習② 災害時の実習 EMIS操作実習資料 P.69~75 医療搬送関連の機能	講師: 兵庫県災害医療センター 中山 伸一 EMIS操作・支援: NTTデータ	
	17:15 ~ 17:40 25分	EMIS操作実習③ 災害時の実習 EMIS操作実習資料 P.76~86 避難所・救護所状況の入力・閲覧	講師: 兵庫県災害医療センター 中山 伸一 EMIS操作・支援: NTTデータ	
	17:40 ~ 18:05 25分	EMIS操作実習④ 災害時の実習 EMIS操作実習資料 P.87~96 救護班の登録、活動状況の入力・閲覧	講師: 兵庫県災害医療センター 中山 伸一 EMIS操作・支援: NTTデータ	
	18:05 ~ 18:15 10分	休憩		
18:15 ~ 19:00 45分	EMIS操作実習⑤ 平時の実習 EMIS操作実習資料 P.97~122 災害拠点病院管理・隊員管理・研修申し込み	講師: 兵庫県災害医療センター 中山 伸一 EMIS操作・支援: NTTデータ		
第2 日目 8 月 5 日 (火)	8:30 ~ 9:00 30分	受付		災害医療センター 外来棟 4階 地域医療研修センター
	9:00 ~ 10:00 60分	実災害を想定したシミュレーション①～②	講師: 兵庫県災害医療センター 中山 伸一 EMIS操作・支援: NTTデータ	
	10:00 ~ 10:15 15分	休憩		
	10:15 ~ 11:15 60分	実災害を想定したシミュレーション③～⑤	講師: 兵庫県災害医療センター 中山 伸一 EMIS操作・支援: NTTデータ	
	11:15 ~ 11:30 15分	休憩		
	11:30 ~ 11:45 15分	災害に備えた平時の準備 ※都道府県担当者へ認識してもらいたい事項を周知 合わせて、医療機関への周知用資料を配布 ・医療機関の全病院化 ・医療機関への緊急時入力、詳細入力登録の周知の依頼	講師: 兵庫県災害医療センター 中山 伸一	
11:45 ~ 12:00 15分	閉会式			

平成26年度DMATブロック訓練実施状況

ブロック	幹事県 (開催地)	開催日程	参加者数 (DMAT登録者)
北海道	北海道	平成26年9月27日(土)～平成26年9月28日(日)	117
東北	青森県	平成26年10月4日(土)～平成26年10月5日(日)	312
東北	みちのくALERT(陸上自衛隊東北方面隊)	平成26年11月8日(土)～平成26年11月9日(日)	233
関東	群馬県	平成26年11月28日(金)～平成26年11月29日(土)	511
中部	愛知県	平成26年10月11日(土)～平成26年10月12日(日)	558
近畿	奈良県	平成27年2月14日(土)	317
中国	山口県	平成26年11月8日(土)～平成26年11月9日(日)	239
四国	香川県	平成27年1月31日(土)～平成27年2月1日(日)	202
九州・沖縄	福岡県	平成26年11月22日(土)～平成26年11月23日(日)	203
合計			2692

平成26年度DMATブロック訓練登録フォーム(北海道ブロック)

・ 目的

北海道釧路・十勝沖を震源とする大規模地震を想定し、災害発生直後において、DMAT隊員が自衛隊等と緊密な連携を図り、より迅速な医療救護活動が行えるよう、専門的な知識の習得と技術の維持・向上を目的とした訓練を実施する。

・ 日時

平成26年9月27日(土) 6:00～18:00
28日(日) 7:00～15:00

・ 場所・会場

【釧路市・釧路町】

活動拠点本部・北海道調整本部：市立釧路総合病院

SCU：陸上自衛隊釧路駐屯地

(+仮想丘珠駐屯地・釧路駐屯地内に丘珠SCUを設置する)

・ 参加機関等、人数、模擬患者数、コントローラー人数

➤ 参加機関36機関

北海道DMAT指定医療機関(22医療機関)、陸上自衛隊北部方面隊、釧路市内医療機関(釧路赤十字病院、釧路労災病院、釧路孝仁会記念病院、星が浦病院、白樺台病院)、釧路・根室管内消防機関(釧路市消防本部、根室市消防本部、釧路北部消

防組合、釧路東部消防組合、根室北部消防組合)、釧路市立看護学院、釧路労災看護専門学校、王子コンテナ株式会社

- 参加人数 約210人
- 模擬患者数 36人
- コントローラー数 53人

・参加車両、航空機

- 病院緊急車両 6台
- ドクターヘリ 1台(道東ドクヘリ)
- 消防機関救急車 0台
- 消防機関その他車両 0台
- 航空機、ヘリコプター 1機(所属 北海道(防災ヘリ))

・訓練想定

釧路・十勝沖を震源とするマグニチュード8を越える地震発生。道内の広範囲で震度6強を観測、津波警報発令。被害が最大となる釧路管内では、建物被害が全壊544棟・半壊2,534棟、人的被害が死者19人・重軽傷者671人、ライフラインは上水道断水世帯数56,284世帯・下水道機能支障人口11,966人。釧路市内の釧路川沿いの一部地域において、津波による浸水があり、複数の橋が通行不能。

・実施項目 (実施した訓練にチェックしてください)

- 参集訓練
- 現場活動(救護所)
- 現場活動(救助現場・CSM)
- 病院支援
- 域内搬送
- SCU
- 広域医療搬送機内活動
- 本部(調整本部)
- 本部(活動拠点本部)
- 本部(SCU本部)
- 本部(域外拠点本部)
- EMIS
- その他()

平成26年度DMATブロック訓練登録フォーム（東北ブロック）

- ・ 目的 平成26年度東北ブロックDMAT参集訓練
- ・ 日時 平成26年10月4日（土）実動訓練 5日（日）訓練振り返り
- ・ 場所及び会場
 - ① 青森地域：県庁、青森県立中央病院、青森市民病院、青森空港、青森港フェリー埠頭
 - ② 西北五地域：つがる総合病院
 - ③ 八戸地域：八戸市立市民病院、八戸赤十字病院
- ・ 参加機関等、人数、模擬患者数、コントローラー人数
 - 参加機関
 - ① 東北ブロックDMAT【別紙参加者名簿のとおり】
 - ② 青森DMAT指定医療機関
【青森県立中央病院、青森市民病院、弘前大学医学部附属病院、弘前市立病院、黒石病院、八戸市立市民病院、八戸赤十字病院、つがる総合病院、十和田市立中央病院、むつ総合病院】
 - ③ 消防本部
【青森地域広域消防事務組合消防本部、弘前地区消防事務組合消防本部、五所川原地区消防事務組合消防本部、八戸地域広域市町村圏事務組合消防本部、十和田地域広域事務組合消防本部】
 - ④ 陸上自衛隊、海上自衛隊、航空自衛隊
 - ⑤ 第二管区海上保安本部【青森海上保安部】
 - ⑥ 株式会社津軽海峡フェリー
 - ⑦ 青森県フェリー埠頭公社
 - ⑧ 青森空港管理事務所、東京航空局
 - ⑨ 青森県立保健大学
 - 参加人数 約750人
 - 模擬患者数 45人
 - コントローラー数 26人
- ・ 参加車両、航空機
 - 病院緊急車両 13台（救急車仕様として連絡があったもの）
 - ドクターヘリ 2機（青森県ドクターヘリ2機）
 - 消防機関救急車 5台
 - 消防機関その他車両 2台
 - 航空機、ヘリコプター 4機（ドクターヘリ除く）
 - 青森県防災ヘリ「しらかみ」 1機
 - 陸上自衛隊「ハンター（UH-1J）」 1機
 - 海上自衛隊「ガーディアン（UH-60J）」 1機

航空自衛隊「クレスト (CH-47J)」 1機

・ 訓練想定

平成26年10月3日午後9時頃、青森市直下型の地震が発生し最大震度7を観測。この地震により、火災や建物倒壊、土砂崩れによる人的被害、火災、電気ガス水道等のライフライン施設に甚大な被害が多発しているほか、鉄道、道路、橋梁等の破壊寸断など甚大な被害が発生。固定電話、一般携帯電話は使用できない状況。

また、10月2日には、それまでの降雨の影響で下北半島において土砂災害が発生したことから、透析患者等をフェリーによって青森市内の病院へと搬送することとし、10月3日の地震発生時点ではフェリーで搬送中。

・ 実施項目 (実施した訓練にチェックしてください)

- 参集訓練
- 現場活動 (救護所)
- 現場活動 (救助現場・CSM)
- 病院支援
- 域内搬送
- SCU
- 広域医療搬送機内活動
- 本部 (調整本部)
- 本部 (活動拠点本部)
- 本部 (SCU本部)
- 本部 (域外拠点本部)
- EMIS
- その他 (民間災害対応船と連携した患者搬送訓練)

平成26年度DMATブロック訓練登録フォーム（東北ブロック/みちのくアラート2014）

(岩手県)

➤ 訓練の目的

みちのくアラート2014において、広域災害救急医療情報システム（EMIS）を活用した操作訓練、被災者救護のための指揮機能の体制を確立する総合訓練及び、航空機による患者搬送等を行う実働訓練を実施し、自治体、関係機関などとの連携を強化するとともに、災害対応に関わる諸施策を推進し、災害対応の基盤を強化することを目的とする。

➤ 訓練日時

平成26年11月6日（木）9時～17時 総合訓練 ※図上訓練

平成26年11月8日（土）8時～16時 実働訓練

➤ 訓練場所・会場

11月6日：《総合訓練》岩手県庁4階会議室、《EMIS入力訓練》岩手県内各病院

11月8日：《実働訓練》いわて花巻空港、岩手県立釜石商工高校、岩手県立中部病院

➤ 参加機関、参加人数、模擬患者数、コントローラー人数

① 広域災害救急医療情報システム（EMIS）入力訓練（11月6日）

基幹及び地域災害拠点病院、二次救急輪番病院

② 総合訓練（11月6日）

岩手DMAT3名（岩手医科大学DMAT）、岩手県職員（総合防災室、保健福祉企画室、医療政策室、商工企画室、県土整備企画室）、岩手県警察本部、盛岡消防本部、防災航空隊、自衛隊、海上保安庁第二管区海上保安部、国交省岩手河川国道事務所、盛岡地方气象台、東日本高速道路（株）、東北電力、KDDI（株）、ソフトバンクモバイル（株）

③ 実働訓練（11月8日）

《参加機関》DMAT60名（コントローラー5名含む）、岩手DMAT保有医療機関、花巻空港事務所、花巻消防本部、釜石大槌地区行政事務組合消防本部、釜石消防団、岩手県立中部病院、岩手県立釜石商工高校、岩手県医療政策室、陸上自衛隊、航空自衛隊、模擬傷病者16名

➤ 参加車両、航空機

《車両》DMAT車両、各消防本部保有救急車、自衛隊アンビ

《航空機》航空自衛隊C-130、陸上自衛隊UH-1、防災ヘリ（ひめかみ）

➤ 実施項目（下記訓練項目の実施の有無）

参集訓練	実施
現場活動（救護所）	未実施
現場活動（救助現場・CSM）	未実施
病院支援	未実施
域内搬送	実施
SCU	実施
機内活動	実施
本部（調整本部、活動拠点本部、SCU本部、域外拠点本部）	実施
EMIS	実施

➤

(宮城県)

- ・ 訓練の目的：宮城沖地震に対する震災対処能力の向上を図る目的で開催される自衛隊方面隊震災対処訓練（みちのくアラート2014）に参加し、広域医療搬送や海上の護衛艦内におけるミニSCU設置訓練などを合同で行う。合わせて病院防災訓練に病院支援DMATとして参加する。
- ・ 訓練日時：平成26年11月6日～9日
- ・ 訓練場所・会場：陸上自衛隊霞目駐屯地・仙台駐屯地、護衛艦くにさき（石巻沖に停泊中）、山形空港（山形県の設置した山形SCUまでの搬送）、仙台医療センター、石巻赤十字病院（石巻専修大グラウンド）、東北労災病院、みやぎ県南中核病院
- ・ 参加機関：国立病院機構 災害医療センター（DMAT事務局）、大崎市民病院、みやぎ県南中核病院、仙台市立病院、東北大学病院、仙台医療センター、石巻赤十字病院、東北労災病院、仙台赤十字病院、東北薬科大学病院、仙台オープン病院、気仙沼市立病院、公立刈田総合病院、登米市民病院、福島県立医科大学、日本赤十字社福島県支部、総合磐城共立病院、南相馬市立総合病院、新潟市民病院、新潟大学医歯学総合病院、村上総合病院、新潟県済生会三条病院、長岡赤十字病院、岩手県立大船渡病院
参加人数：132人（DMAT隊員のみ）
模擬患者数：約750人
コントローラー人数：19人
- ・ 参加車両：DMAT車両（救急車を含む）、自衛隊救急車、仙台市消防局救急車、民間救急車両（株式会社リーベン）、
航空機：UH-1、UH-60、CH-47、MV-22（オスプレイ）
- ・ 実施項目：参集訓練、病院支援、域内搬送、広域医療搬送、SCU、機内活動、本部（調整本部、活動拠点本部、SCU本部）、EMIS

(秋田県)

1. 訓練の目的
広域医療搬送患者を受入れる域外拠点（SCU）訓練
2. 訓練日時
2014年11月9日 10時～14時
3. 訓練場所
大館能代空港
4. 参加機関・人数・模擬患者数・コントローラー人数
秋田 DMAT 29名
内訳：大館市立総合病院 DMAT（医師1、看護師1、ロジ2）
北秋田市民病院 DMAT（医師1、看護師2、ロジ2）
山本組合総合病院 DMAT（医師1、看護師3、ロジ1）
秋田大学附属病院 DMAT（医師2、看護師4、ロジ1）
市立秋田総合病院 DMAT（医師1）
秋田脳研センターDMAT（医師1、看護師3、ロジ1、運転士1）

北秋田市消防署 4名
陸上自衛隊 3名
大館能代空港管理事務所 3名
秋田県災害医療対策本部 1名
合計 41名

模擬患者 4名（陸上自衛隊）
コントローラー 2名（秋田脳研センター 鈴木明文、秋田県医務薬事課 山中公伸）

5. 参加車両

救急車 3台
内訳：北秋田市消防署 1台、秋田大学附属病院 1台、秋田脳研センター 1台
陸上自衛隊 CH47

6. 実施項目

DMAT 参集訓練
域外拠点本部（SCU）
EMIS

（山形県）

1 訓練の目的

陸上自衛隊東北方面隊震災対処訓練（みちのく ALERT2014）の機能別訓練（医療機関との連携、広域医療搬送）への参加を通じ、SCU（航空搬送拠点臨時医療施設）の設置・運営の手順等を確認し、もって、災害時の医療搬送体制整備・強化を図ることを目的とする。

2 実施日時

平成 26 年 11 月 8 日（土）8 時 30 分～13 時 30 分

3 実施場所

山形空港貨物ビル（東根市大字羽入字柏原新林 3008）

4-1 訓練参加機関

- （1）医療：県内 DMAT 指定医療機関（8 病院）、北村山公立病院（日赤医療救護班）
- （2）消防：東根市消防本部
- （3）自衛隊：陸上自衛隊第 6 師団
- （4）空港：山形空港ビル株式会社
- （5）行政：山形県（山形空港事務所、危機管理課、地域医療対策課）

4-2 参加人数

プレーヤー：91 名

4-3 模擬患者数

- ①実機 (CH47) 搬送患者 (霞目→山形) : 陸上自衛隊第6師団 (4名)
- ②実機 (C130) 搬送患者 (花巻→山形) : 陸上自衛隊第9師団 (2名)
- ③仮想航空機搬送患者 : 陸上自衛隊第6師団 (10名)

4-4 訓練補助者数

コントローラー : 12名

5 参加車両、航空機

救急車両 : 1台、CH-47 : 1機、C-130 : 1機

6 訓練項目

- (1) SCUの設置、展開
- (2) 航空機からの患者引継ぎ、SCUまでの搬送
- (3) SCUにおける患者受入れ、処置
- (4) 医療機関への搬送調整 (搬送順位・受入れ先病院・搬送手段の調整)

平成26年度DMATブロック訓練登録フォーム（関東ブロック）

- ・ 目的
群馬県南部地域における大規模災害を想定し、日本赤十字社及び関東ブロックの各都県DMATや関係機関との密接な連携により、被災地における緊急治療、病院支援及び広域医療搬送等を迅速に行うことができるよう実践的なブラインド形式による訓練を実施する。
- ・ 日時
平成26年11月28日～29日
- ・ 場所・会場
群馬県庁、陸上自衛隊相馬原駐屯地、群馬県消防学校、災害拠点病院ほか
- ・ 参加機関等、人数、模擬患者数、コントローラー人数
 - 参加機関 約100機関
 - 参加人数 約2000人
 - 模擬患者数 約400人
 - コントローラー数 89人
- ・ 参加車両、航空機
 - 病院緊急車両 多数
 - ドクターヘリ 4台
 - 消防機関救急車 約10台
 - 消防機関その他車両 台
 - 航空機、ヘリコプター（CH47）1機（所属 陸上自衛隊 ）
- ・ 訓練想定
地震「関東平野北西縁断層帯主部」「片品川左岸断層」
発災日時 11月28日(金)9:00 地震発生
主な被災地：群馬県南部
通信手段：携帯電話不通
一般電話不通（ただし独立した災害優先電話は可）
通常のインターネット回線不通
パケット通信（データ通信）可
モバイル端末によるインターネット回線接続可
衛星電話可
道路状況：高速道路は全線通行可、そのほかの道路については、当日状況付与を行う
給油：群馬県内GS給油可能
- ・ 実施項目（実施した訓練にチェックしてください）
 - 参集訓練
 - 現場活動（救護所）
 - 現場活動（救助現場・CSM）
 - 病院支援